



深刻な消化不良が癒された

Acute digestive condition — healed

Translated from *The Christian Science Journal*, vol 126 number 12

クリスチャン・サイエンス・ジャーナルより転載 第126巻 第12号

数年前のこと、私は断続的に胃の不調を覚え、それがだんだんひどくなって、ついある日、消化機能が全く働かなくなり、食べることも、飲むことも、排泄することもできなくなりました。

仕事に行けず、通常の活動が何も続けられなくなった中で、私は、祈りのみに頼って癒されたいと願っていました。それから数日のあいだ、私は熱心に聖書とメリー・ペーカー・エディの著書を勉強して、私を再び自由にしてくれる霊的真理を理解したいと思い、祈り続けました。シャデラク、メシャク、アベデネゴが、ネブカデネザル王に命じられた偶像の礼拝を認めずに、拒絶した、聖書の物語（ダニエル3章参照）が、祈りのみによって癒されることを疑う誘惑に抵抗する、私の決意を支えてくれました。

私は、**キリスト**、すなわち私たち一人ひとりが現す神性の本性を、よりはっきり理解することに専念しました。「主の祈り」、「山上の垂訓」、またイエスの癒しを伝える福音書を学んで、深く祈りました。また、**キリスト教科学**の刊行物に載っている多くの記事を読んで、私たち一人ひとりが、神性の**両親**と決して途切れない関係にあることを確認し、勇気づけられました。

妻は、一人では私の世話が十分にできないことが分かり、数日後、私を近くの**キリスト教科学**の看護施設に連れて行ってくれました。霊的に支えてくれる施設の素晴らしい環境と、熟練した

他の日本語記事については、次をご覧ください: <http://www.spirituality.com/christiansciencesakigake/index.jhtml>

© 2009 The Christian Science Publishing Society (CSPS). この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事を手紙 (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を手紙を他の出版物に転載する許可を得るには、copyright@cspss.com 宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

キリスト教科学の看護師たちの看護に感謝しました。

私は、この問題に対する答えが、祈りを通してもたらされることを感じていました。私自身、霊的癒しを経験してきましたし、他の人たちの癒しもたくさん目撃してきたので、**キリスト教科学**の癒しの力を、完全に信頼していました。

キリスト教科学実践士の助けと共に、私の祈りを支えてくれている家族の祈りによって、**神**が愛をもって、私の人生を統治していることを、それまで以上にはっきり感じるようになっていました。**霊**がすべてであることを実感して、物質、すなわち身体というものや、病気は、支配する力を持たないことを、更に明確に認識し始めていました。私の真の本体は、**神**の映像であり、体は考えから独立して行動できないことを、更にはっきりと理解しました。唯一の**心**、すなわち**神**しか存在しないので、私は、**心**の現れとして、健康と正常な行動しか、現すことができないのでした。

この期間を通して、幾度も靈感と啓発を与えられました。痛みと闘いながら、昼夜を通して祈り続けました。ある晩、遅く、**神**に、私は何を知る必要があるのか、教えてくださいと願いました。そして、示されたのは、私がある種の不道德な行動にふけていて、それと対峙し、それを止めなければならないということでした。具体的には触れませんが、それは私の最高の善の感覚と妥協する、ある種の官能主義でした。

私は、この誤りは、自分の霊的本性に属するものではなく、病気と共に、捨て去ることができなことを、認識しなければなりませんでした。このように祈っていると、症状は残っていないながらも、前途に光が射してきたことを感じました。

10日ほど何も食べられない日が続いたあと、根本的に変わる必要があること、そうしないと、

私は死ぬかもしれないと思いました。私は死を恐れてはいませんでした。死は敵であるという聖書の教え（第1コリント 15:26 参照）をよく知っていたので、死と闘わなければならないことを知っていました。

最悪の状態にあるように思われたその夜、私は再び実践士に電話をして、助けを求めました。彼は、神が私にいつも語っている私の完全な身分は、明白な真実なのです、そして、私はそれを聞くことができるのです、と言いました。彼が、本当に深い愛と霊的確信を持って話してくれるのを聞きながら、私は、自分のうちに心的変化が起こっていることを感じました。そして、腹部に、冷とした、うずくような感覚を覚えたのち、痛みが完全に消えてしまいました。

それから起こったことを描写するのは難しいのですが、すべて良しという確信に包まれていました。思考が、これまで経験したことがないほどはっきりとしてきたのです。まるで、心的なやぶが、きれいに取り払われたようでした、そして、私は真に霊的に存在していることを、把握することができました。その翌日、消化機能が回復し、普通に食事をするできるようになりました。私は家に帰り、2〜3日のうちに仕事に復帰しました。そのあと数日して、すべての症状が消えました。

体の癒しに感謝すると同時に、不道德な行動に打ち勝って得た自由こそ、実は、私にとって最大の癒しでした。

この経験は、私にとって試金石となりました。それは、2つの力は存在しないという、霊的事実の理解を確信させてくれました、つまり、一方に私たちを助け、養う力があり、そして他方私たちを害する力があるのではなく、ひとつの力のみ、つまり神である神性の心のみが存在する、ということを理解したのです。この癒しはまた、キリストは私たちの意識に到来し、私たちの

思考を高め、私たちが常に支える輝かしい真理へと導くことを、確信させてくれました。

米国、イリノイ州、エルサ

ティモシー・ブース

Timothy Booth